


受賞者氏名	安藤 直見	
所属	デザイン工学部建築学科	
受賞年月日	2024年6月8日	
国内・国外	国内	
授与機関等名称	日本図学会	
受賞名	2023年度日本図学会大会 優秀研究発表賞	
受賞(研究)内容詳細	<p>2023年11月24日～26日に宇奈月温泉(富山県)で開催された2023年度日本図学会大会における発表「黒門町の街並みと小さな広場」が優秀発表賞を受賞した。なお、この発表は伴う論文は、査読を経て、日本図学会が発行するジャーナル「図学研究」(2024年9月発行)に制作論文(投稿規定において「作品のコンセプトと制作のプロセスが論理的に述べられ、高い完成度を有するもの(著者自身の制作物を対象とする)とされている」として掲載された。</p> <p>その制作論文に記した概要は以下の通りである:</p> <p>かつては黒塀が大規模に連続した街並みの一角に、明治、昭和、平成の各時代に建てられた住宅と土蔵が建つ。それらは、もともとは3世代が住むプライベートな敷地に建つ建築群であったが、居住者の他界あるいは転居に伴い、いずれもが空き家となっていった。筆者は、1980年代以降、この敷地内の建築設計に関わり、1棟の新築を含む全4棟の改築・改修を担った。本論では、古くなっていく建築の再生と空き家の活用により形成されたパブリックな街区の事例について論じる。</p> <p>「黒門町の街並みと小さな広場」は、同タイトルによる建築設計作品とし2023年のグッドデザイン賞も受賞している。しかし、日本図学会における研究発表ならびに制作論文は、建築設計の解説ではなく、古い建物の改修による街並みの変化を、建築図面およびスケッチなどを用いて図式化・論理化したものである。</p> <p>以下、制作論文の一部を引用する:</p> <p>そんな街区の変化は古い街並みのどこにでも起こりえるものだと考えられる。本論は、街区の構成を街並みの変化という観点から論理化し、建築図面およびスケッチなどの図として記録する。</p> <p>(中略)以上、空き家を賃貸住宅や宿泊施設などへ用途変更することにより、敷地全体を周辺地域に開いた広場や庭園をもつ街区として活用するに至った建築作品のコンセプトと制作のプロセスについて述べた。その上で、旧来は伝統的な黒塀のあるプライベートな敷地が、西洋的ともいえる小さな広場を内包するパブリックな街区へと変化した姿を、筆者が長年にわたり街並みの変化を意識しながら描いてきた図面やスケッチを再構成することを通じて、図式化した。</p>	